

### 4-3. 歴史文化を活かしたまちづくりの課題

本市では、これまでも多様な主体が歴史文化を活かしたまちづくりに向けて、さまざまな取り組みを展開してきた。

しかし、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化等の社会情勢や、歴史文化に期待される機能・役割の高まりなどを背景に、歴史文化遺産の保存・活用に関して、潜在的に抱えてきた課題が顕著になってきた。また同時に、今後の加西市における歴史文化を活かしたまちづくりの課題も新たに生じてきた。

それらの「課題」は、歴史文化遺産の「把握に関する課題」・「価値・魅力の認識に係る課題」・「保存・活用の主体に係る課題」・「環境整備に係る課題」・「魅力発信に係る課題」・「活用に係る課題」の6点に整理できる。

#### (1) 歴史文化遺産の把握に関する課題

- ①近世・近代の石造物、加西市の暮らしに深い関わりのある「水場」や利水施設、天下溝など、学術調査等による価値付けができていない歴史文化遺産が市域の各所に残されており、それらの価値の解明や魅力の発見を目的とした継続的な調査が必要とされている。
- ②本市では、これまでも平成15年(2003)から19年(2007)にかけて、「加西市史第四巻文化財(美術・工芸)」・「加西市史第五巻文化財(建造物)」・「加西市史第六巻(民俗)」等の編さん、平成18年度(2006)の「加西市デジタルミュージアム(祭り・伝統行事)」の構築、など、継続的に進めてきた歴史文化遺産に関する調査結果を各種媒体で取りまとめてきた。しかし、これらの歴史文化遺産に関する調査結果等情報の一元化やデータベース化が進んでいないため、市民や来訪者が加西の歴史文化に触れようとしても、情報収集が容易ではない。また、歴史文化遺産の保存のための防災・防犯的視点からみて、文化財ハザードマップの作成や史料等のデジタル化が遅れている。

#### (2) 歴史文化遺産の価値・魅力の認識に係る課題

- ①市内では、「加西市史を読む会」や「加西市播磨国風土記講座」の開講、「ふるさと加西再発見講座」の開講などの学習講座以外にも定期的に市が主催する講演会やシンポジウムを開催してきた。さらに座学だけでなく、歴史文化遺産を再発見して、歴史文化に触れる歴史ウォークなどを継続的に実施してきた。しかし、子どもたちや若者の参加がないといった参加者の階層が限定されることなどが原因となって、加西市の歴史文化遺産の価値や魅力が市民に十分に伝わっていない。そのため、子どもたちや若者を対象とした教育面での取り組みの推進が求められている。
- ②本市で継承されてきた東光寺の田遊びなどの民俗行事や、日吉神社の秋大祭などの祭礼、石仏などの歴史文化遺産は、その保存・活用のための担い手が高齢化などにより減少している。また、歴史文化遺産に造詣の深い市民による調査が期待される場所であるが、現状では、市民の知識やスキルを磨く機会や講座の開催が限定的である。

#### (3) 歴史文化遺産の継承に係る課題

- ①本市では、「ふるさと創造会議」により、歴史文化を活かしたまちづくりが進められてきた。こうした地区の活動団体等の取り組みをより一層効果的なものにしていくため、また担い手が減少する中で個々の市民の負担を軽減するため、加西市・地区間の連携をはじめとしたさまざまな主体間の

連携体制づくりや活動への支援の拡充など、歴史文化遺産について考える取り組みが求められる。

- ②文化財行政においては、これまでの行政主導による文化財の保護を中心とした施策から、市民主体による幅広い歴史文化遺産を守り、育み、まちづくりに活かす施策へと大きく転換することが求められている。このため、行政は市民主体による歴史文化遺産の継承に対する多面的な支援を行うなどの措置を講じていくことが求められる。また、本市のまちづくり関連部局との連携強化を図ることにより、これまでも先導的に実施されてきた地区の活動団体等による歴史文化を次の世代に受け渡すための取り組みの一層の充実や、地区組織を単位としたまちづくりの取り組みとの連携を促すことが求められる。しかし、現状では、歴史文化の継承に係る主体の明確化や、市民、団体、行政などの主体間の連携が十分ではなく、取り組みの効果が限定的である。

#### (4) 歴史文化遺産の環境整備に係る課題

- ①歴史文化がもつ良好な景観の形成や地域コミュニティのつながりの形成、防災の知恵の継承、教育・学習の場などにおける歴史文化の認識など、歴史文化遺産の多様な機能を使いこなして地区への誇り・愛着の醸成につなげ、良好な居住環境づくりや定住促進等に結び付けていくことが求められる。しかし、歴史文化遺産の整備・補修・修理・修繕等に係る資金面の負担が大きく、老朽化の進行が顕著であると共に、歴史文化遺産の魅力づくりに向けた取り組みが十分に実施できていない。
- ②指定等を受けていない歴史文化遺産の中には、滅失の危機に瀕していると共に、防災対策が必要なものも多い。防災面では、加西市地域防災計画等との連携・調整を図りながら、災害予防や災害応急対策、災害復旧・復興についての考え方を整理し、各地区で歴史文化遺産の防災対策について考えるなど、歴史文化遺産の防災体制の強化が求められるが、現状では、その体制が十分ではない。

#### (5) 歴史文化遺産の魅力発信に係る課題

- ①加西市観光まちづくり協会のホームページによる「かさい観光N a v i」の開設、加西市播磨国風土記 1300 年祭実行委員会による「播磨国風土記の里 加西ハイキングマップ」の発行など、歴史文化遺産の魅力に触れるための取り組みを進めてきた。しかし、歴史文化遺産の魅力が市の内外に効果的に発信されていないため、市民や市外からの来訪者にも十分に認識されていない。特に、青野原俘虜収容所など、海外との交流が期待できる歴史文化遺産の存在が国外に十分発信されていないことその他、歴史文化遺産を紹介するパンフレットや解説板などの多言語化が進められていない。
- ②歴史文化遺産の保存・活用を進めるための持続的な歴史文化遺産の活用による収益構造の確立が必要である。

#### (6) 歴史文化遺産の活用に係る課題

- ①歴史文化遺産が受け継がれてきた背景や歴史文化遺産相互の関係、周辺環境との関係などを踏まえて、歴史文化遺産がもつ本質的な価値を捉えた情報の発信や周辺との一体的な景観づくり等を行うことで、その魅力に磨きをかけ、観光振興等を通じた地域活力の向上を図ることが求められる。しかし現状では、新たな価値を付加する取り組みが十分ではなく、活用の効果が限定的である。
- ②本市の歴史文化遺産の特徴の一つとして、石の文化があげられる。その背景には、街道筋における流通や交易による文化の形成がある。したがって、歴史文化遺産活用のために、兵庫県や近隣市町との連携による魅力発信が必要とされるが、現段階ではその連携が十分ではない。
- ③地域自身が歴史文化を使いこなし、収益を上げる取り組みなどが必要とされている。

## 4-4. 歴史文化遺産の保存・活用に関する方針

### (1) 歴史文化を活かしたまちづくりの目標

本市の歴史文化の特徴は、石棺を転用した石棺仏加工に代表されるように、受け継がれてきた歴史文化遺産を活かして各時代の歴史文化を育み、その積み重ねが現在に受け継がれていることにある。これらの歴史文化遺産を守りながら、巧みに使いこなす技術や伝統を継承し、その価値を損なうことなく活かし、より一層魅力的なものとして育み、次の世代に伝えていくことが、現代を生きる市民に求められている。

そこで、歴史文化を活かしたまちづくりの目標として、次の3点を市民と共有し、さまざまな主体が連携して、加西の元気力である「人づくり」、「まちづくり」に取り組むこととする。

#### 【目標】

- ◆ 加西らしい歴史文化を活かして、豊かな生活環境をつくり、地域活力を向上する
- ◆ 加西に受け継がれてきた歴史文化に磨きをかけて、次の世代に受け渡す
- ◆ 加西の歴史文化を大切に守り、活かす「加西人<sup>かさいじん</sup>」を育てる

### (2) 歴史文化を活かしたまちづくり2つの方針

本市には数多くの歴史文化遺産が受け継がれるなかで、目標を実現するためには、市民が中心となって保存・活用に取り組んでいくことが求められる。

しかし、少子高齢化や人口減少が進む中で、義務感に基づく保存だけでは、市民にとっては大きな負担になりかねない。従って、楽しみながら歴史文化遺産を発見し、学び、活かし、その結果が歴史文化遺産を守ることにつながるという流れを創り出していくことが重要となる。

そこで、目標を実現化するために、歴史文化を活かしたまちづくりに関わる全ての主体が共有すべき起点を「楽しみながら、活かす」とし、次の2つの方針に基づく取り組みを両輪で展開していく（図4-4-1参照）。

#### 【起点】 ～楽しみながら、活かす～

方針1：歴史文化を身近に想う

「a：調べる」「b：学ぶ」「c：考える」

方針2：歴史文化の魅力を育む

「a：整える」「b：発信する」「c：使いこなす※」

※ 歴史文化遺産を守りながらもさまざまな方法で活かし、その中で、各時代の魅力を付け加え、磨きをかけてきた加西人らしさを表現するために「使いこなす」という言葉を用いる。

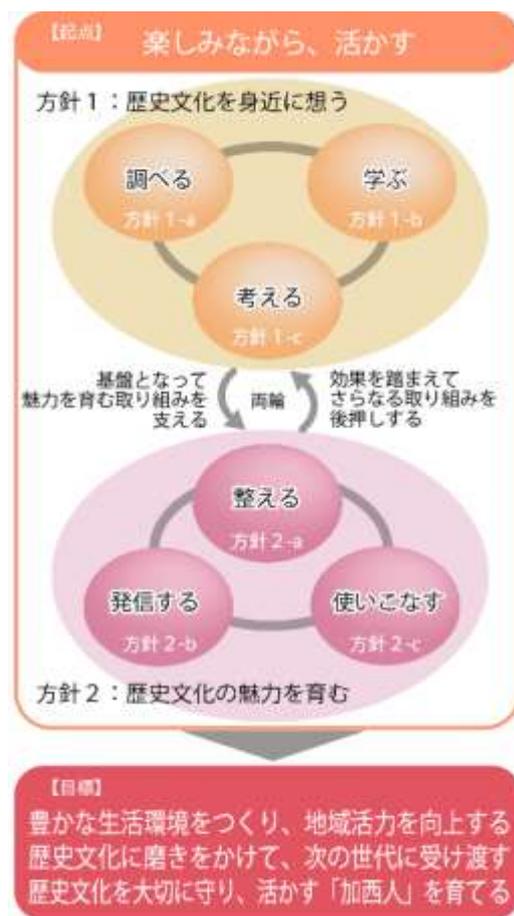


図4-4-1 目標と方針の関係

## 方針1 歴史文化を身近に想う

本市の歴史文化遺産がもつ価値や魅力を再認識し、地域の「宝もの」として、市民を中心に、さまざまな主体が連携・協力して保存・活用に取り組むための基盤を形成する。

### 1 調べる（方針1-a）

本市の歴史文化や歴史文化遺産についての継続的な調査、歴史文化遺産の把握を進め、保存・活用の取り組みを後押しする新たな価値や魅力の発見に努める。



遺跡の発掘調査（マンジュウ古墳）



～播磨国風土記の里を歩こう～  
加西ツーデーマーチ

表 4-4-1 主体ごとの「調べる」取り組みの方向性 ※

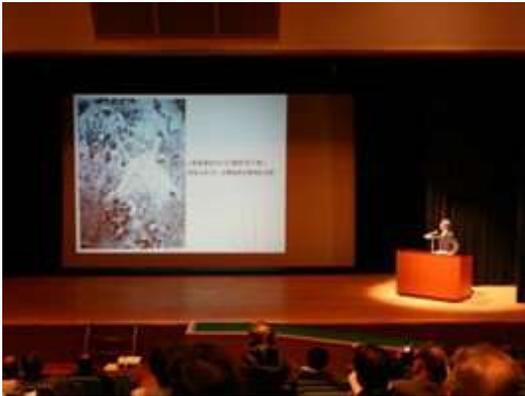
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や研究機関、専門家が中心となって実施する調査にあたっては、情報提供や調査への参加など、積極的に協力する。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区のまちづくりの活動を行う組織や団体等は、それぞれの地区や古地名・故地、水場、天下溝などをテーマとした調査を実施する。</li> <li>研究機関やヘリテージマネージャーは行政や市民等による調査にあたって、調査テーマや内容、方法などについて、専門的見地から助言・指導を行う。</li> <li>研究機関は、加西市を対象として、最新の知見や技術等を用いながら、専門とする分野の調査・研究に取り組み、加西の歴史文化研究を先導する。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>加西の歴史文化の特徴等を構成する歴史文化遺産の効果的かつ多角的な調査を推進するための調査計画を作成するとともに、市民、ふるさと創造会議などの団体、研究機関等と連携した調査体制の整備を進める。</li> <li>加西の歴史文化を特徴づける玉丘古墳群、鞆野飛行場、石造物、歴史的建造物等、さまざまな視点からの歴史文化遺産の全容解明、掘り起こしを進める。</li> <li>学校教育や社会教育、イベントとの連携などを通じて、調査自体を歴史文化と触れ合える場とすることで楽しみを創出し、意識啓発等に活かすため、市民や団体による調査を、人材面、資金面、主体間の連携・調整面など、多角的に支援する。</li> <li>歴史文化遺産の調査成果をもとに、歴史文化遺産のデータベース化、地理情報の整理を進めるとともに、公開によるさらなる調査の進展を促す。</li> <li>日々進歩する先端技術の活用による調査・資料作成を進める。</li> </ul>

※ 「市民」「団体」「行政」は、それぞれ次の主体を含むものとする。（以下、同様）

- ・市民：市民、歴史文化の保存・活用に関心を寄せる出身者等
- ・団体：自治会、協議会、商工会、観光協会、町・区やふるさと創造会議、大学などの研究機関、ヘリテージマネージャー等
- ・行政：加西市

## 2 学ぶ（方針 1-b）

市民一人ひとりが、加西の歴史文化の担い手であることを認識し、加西市全域や地区の歴史文化に関心を持ち、自ら進んで学び、知識を深め、加西市や地区に対する誇りと愛着を育む。



加西市・神戸大学共同研究  
「歴史遺産活用シンポジウム」



北条小学校歴史ガイド隊

表 4-4-2 主体ごとの「学ぶ」取り組みの方向性

市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や活動団体等が主催するイベントや地域の祭り・行事等に積極的に参加するとともに、自らも進んで図書館や資料館等の施設やインターネット等を活用して、加西市や地区の歴史文化に関する情報を集めて学ぶ。</li> <li>さまざまな人との交流を通じて、地区の歴史文化の魅力を再認識する。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区やふるさと創造会議などを単位としながら、石彫ワークショップ等子ども達に地域の歴史文化を伝える取り組みを進め、地域が一丸となって担い手を育てる。</li> <li>各種団体は、専門以外の分野との交流・学びを通じて、新たな価値の発見や加西市の歴史文化の総合的な魅力づくりにつなげる。</li> <li>研究機関やヘリテージマネージャーは、シンポジウムや市民講座、町歩き、担い手育成事業などで講師やコーディネーター等を務める。また、行政や市民団体等による取り組みを技術的に支援し、市民等が歴史文化に親しみをもち、楽しみを感じられる解説に努める。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムや市民講座、歴史ウォークなどを専門家や活動団体等と協働しながら、継続的に開催し、市民等が加西市や地域の歴史文化を楽しみながら知り・学び、情報交換できる機会を増やす。また、歴史文化の概要や価値・魅力を整理して、さまざまな媒体を通じて発信し、市民をはじめとした多くの人々が、加西市の歴史文化について気軽に知り・学べる環境を整える。</li> <li>学校教育における地域の歴史文化学習メニューを通じて、児童に加え、親・祖父母世代も含め、身近な歴史文化遺産の保存・活用について考える機会を増やす。また、歴史的建造物や遺跡などの現地見学や生業・産業などの体験、歴史資料や考古資料の学校への貸し出しなどを通じ、本物に触れながら学ぶメニューづくりを進めるなど、学校教育における「地域の歴史文化学習」の充実を図る。</li> <li>歴史的建造物の保存技術者や伝統文化の継承者、歴史文化の価値や魅力を的確に伝えられる観光ガイドなど、関係団体や地域組織等による次代の歴史文化の担い手となる人材育成をより一層支援する。</li> <li>地域の歴史文化に精通した「(仮称)加西市民学芸員」を養成するなど、歴史文化を活かしたまちづくりのリーダー的な人材を育成する。</li> </ul>

### 3 考える（方針 1-c）

歴史文化をまちづくりに活かしながら守り、育み、より豊かな生活環境づくりや地域活力の向上につなげるための方法を検討する。



地域住民によるワークショップ  
(北条旧市街地ビジョンより)



九会地区ふるさと創造会議の円卓会議

表 4-4-3 主体ごとの「考える」取り組みの方向性

市 民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民一人ひとりが、日常的に身近な歴史文化遺産に目を配り、近隣や地域で話題にあげるなど、歴史文化遺産について考える機会を増やす。</li> <li>・ 災害時における対応の方法などを検討し、歴史文化遺産の防災体制を強化する。</li> </ul>
団 体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区の組織やふるさと創造会議などのまちづくりに取り組む組織・団体が中心になって、歴史文化遺産の保存や活用についての検討を先導する。</li> <li>・ 研究機関やヘリテージマネージャー等は、市民等からの相談への対応に協力し、歴史文化遺産の価値の評価や保全・維持・管理措置等に対する助言・指導等を行い、市民等の活動を適切な方向へと誘導する。</li> <li>・ 研究機関等は、市が実施する歴史文化を活かしたまちづくりについて、各分野の専門的見地から助言等を行い、歴史文化を活用したまちづくりを誘導する。</li> </ul>
行 政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史文化遺産の保存・活用のための相談窓口を設置するなど、市民等が困った時に気軽に相談できる体制を整える。</li> <li>・ 専門家の派遣や活動助成などを通じて、地域主体での計画づくりや体制づくりなどの取り組みに対する支援を充実する。</li> <li>・ 歴史文化遺産を活かしたまちづくりに関わるさまざまな主体が集い、話し合える場を設置する。そこでは、子どもたちも含め、親・祖父母世代も含めて、身近な歴史文化遺産の保存・活用について考える場とする。</li> <li>・ ホームページや無料公衆無線 LAN (Wi-Fi) のアクセスデータ等のビッグデータを用いた歴史文化遺産のより効果的な観光活用方策の検討など、先端技術を積極的に活用して歴史文化を活かしたまちづくりのあり方の検討を行う。</li> <li>・ 関連部局との連携・調整のもとに、法制度や国・県の補助事業等の積極的な活用により、加西市全体としての歴史文化を活かしたまちづくりを推進する。</li> </ul>

## 方針2 歴史文化の魅力を育む

個々の歴史文化遺産ならびにそれらが相互に関係し合ってつくり出される魅力を高め、市域内外に発信し、定住促進、観光振興、産業振興などにつなげる。

### 1 整える（方針2-a）

歴史文化遺産を活用するために必要な環境を整えるとともに、周辺の景観の保全・形成などに取り組み、歴史文化遺産がもつ魅力のより一層の向上を図る。



地域で大切にされているお地蔵さん



史跡公園の整備（玉丘史跡公園）

表 4-4-4 主体ごとの「整える」取り組みの方向性

市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な歴史文化遺産の日常的な目配りや維持管理、防火訓練や歩く文化財パトロール等を通じて、市民一人ひとりができることから自主的に取り組む。</li> <li>敷地内や敷地周りの身近な景観づくりに取り組むとともに、建物の建て替えや工作物の設置などにあたっては、周辺の景観や歴史文化遺産等との調和に配慮する。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>北条鉄道や路線バス、コミュニティバス、自転車道の整備などの交通ネットワークを検討し、効果的に歴史文化遺産を巡ることができる環境を整える。</li> <li>研究機関等は、歴史文化遺産の価値を損なわないよう、保存・整備の方法等について助言・指導等を行う。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉丘古墳群をはじめ、指定等文化財については、保存・整備事業を適切かつ計画的に実施すると共に防犯設備の整備を進める。</li> <li>五百羅漢の活用のための観光整備事業を推進する。</li> <li>景観担当部局との連携による北条地区の景観形成事業を推進する。</li> <li>国・県・市による文化財の新たな指定等を進める。</li> <li>近代戦争遺跡など未指定の文化財の登録推進ならびに環境整備を進める。</li> <li>未指定の歴史文化遺産の保存・活用に向けて、景観条例（県）に基づく景観形成重要建造物等や環境の保全と創造に関する条例（県）に基づく郷土記念物の指定などの関連する法制度の積極的な活用を推進する。また、加西市独自の「(仮称)加西市民遺産」の登録制度の創設を検討する</li> <li>景観や土地利用等に関する法や条例等による規制・誘導方策と連携を図りながら、歴史文化遺産の周辺景観や歴史文化遺産をつなぐ道筋の景観についての保全・形成を重点的に進める。</li> </ul>

## 2 発信する（方針 2-b）

本市の歴史文化に関する多様な情報を、さまざまなツールを通じて市域内外に広く発信し、歴史文化を活かしたまちづくりの機運の向上並びに移住者や観光客の増加等につなげる。



パンフレットの作成  
（「播磨国風土記ゆかりの地マップ」）

案内板・解説板の設置

表 4-4-5 主体ごとの「発信する」取り組みの方向性

市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS などを使って、市民自らが加西市や地区の歴史文化の魅力をも、全国・全世界に向けて発信する。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動団体や各地区のまちづくりに取り組む組織・団体が中心となって、ホームページや会報等を通じて、地区の歴史文化の魅力をも内外に発信する。</li> <li>・ 観光客が地区の歴史文化を巡り、触れあえるよう、地区の歴史文化遺産の掘り起こし等の調査結果をもとに、地区ごとのガイドマップ等を作成する。</li> <li>・ 研究機関は、加西市の歴史文化に係る新たな価値や地域の良好な取り組み事例などの学会報告など、学術的・専門的な見地からの魅力を全国に向けて発信する。また、シンポジウムや講演会などを通じて、地域住民の意識啓発を支援する。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページや広報、パンフレットなどによる加西市の歴史文化情報の発信を継続・拡充していくとともに、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）や高機能端末などの先端技術を積極的に活用して、加西市の歴史文化をより分かりやすく、魅力的に感じられる環境づくり、新たな情報発信方法を検討する。</li> <li>・ 歴史文化情報の発信にあたっては、観光情報や駐車場・便益施設等の情報との併記や多言語表示への対応など、多くの人々の来訪を促すための工夫を行う。</li> <li>・ 歴史文化遺産相互の関係がつくる歴史文化ストーリーや歴史文化遺産の価値をより多くの人々に分かりやすく伝えるために、案内板・解説板（多言語表示）の設置を進める。</li> <li>・ 活動団体等の取り組みに対する顕彰制度の創設・表彰や、他都市における先進的な事例の収集・調査による取り組み事例集の作成・発信などにより、取り組みのさらなる向上・発展を促す。</li> <li>・ 子どもたちが、自分たちの地区の歴史文化の魅力を知り、誇りに思い、その良さを発信していくため、学校教育と連携しながら、「(仮称)子ども観光大使」の認定などの取り組みを進める。</li> <li>・ 出身者や来訪者等を取り込み、加西市の歴史文化の魅力をも積極的に発信してもらう仕組みづくりを検討する。</li> </ul>

### 3 使いこなす（方針 2-c）

歴史文化遺産相互のつながりや関係するさまざまな主体・地区のつながりを創出し、良好な生活環境づくりや観光振興や産業振興などの地域活力の向上に向けた活用の効果を最大限に発揮する。



鎌倉山ハイキングコース



新たな歴史文化の育成（子ども狂言と加西能）

表 4-4-6 主体ごとの「使いこなす」取り組みの方向性

市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化に係るイベントの開催、地区の祭りへの出身者・来訪者の参加促進など、歴史文化を介して人と人とのつながりを育み、豊かな生活環境づくりを進める。</li> <li>・観光ボランティアガイドや活動団体への参加を通じて、積極的に歴史文化遺産を使いこなす。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の組織やふるさと創造会議などの各地区のまちづくりに取り組む組織・団体が中心になって、重点的に取り組む歴史文化遺産や各地区の「関連文化財群」を検討し、歴史文化遺産をまちづくりに効果的に活かす。</li> <li>・市内の歴史文化遺産や市域を越えたより広域的な歴史文化遺産の相互関係の整理等を通じて、「関連文化財群」の価値づけや魅力づくりを支援する。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化遺産相互の関係をもとに「関連文化財群」を周知し、それらのまとまりを手掛かりに歴史文化を活かしたまちづくりをより効果的に推進する。</li> <li>・青野原俘虜収容所などの近代遺産施設の活用を進める。</li> <li>・歴史文化に係る活動への支援や活動団体相互の交流・連携の促進、さまざまなイベントの開催・支援などを通じて、活用の取り組みの充実・展開を図る。</li> <li>・多様な観光ニーズに対応した歴史文化観光メニューや子どもによる歴史観光ガイドなどの「加西ならではの」魅力的なメニューの充実、「関連文化財群」のルートづくりなどに取り組む。それにより、何度も訪れたいと思える加西の歴史文化観光の魅力づくりを進める。</li> <li>・子ども狂言や加西能など、加西の歴史文化を題材とした新しい歴史文化を育成する。</li> <li>・庁内関係部局、国や県、近隣市町等との連携体制を整備し、多様な制度・事業の活用や関連施策との連携を通じて、観光や産業、教育をはじめとした、まちづくりのさまざまな側面に対して、歴史文化遺産を効果的に活かす。</li> <li>・博物館・図書館・資料館等との連携体制を整えて歴史資料等を効果的に公開し、学校教育や郷土学習、観光資源として活用する。</li> <li>・加西能や石彫りなど、加西市の歴史文化を発展させた新たな歴史文化の育成や、空き家バンク制度等と連携した古民家等の歴史的建造物の活用推進など、加西市の歴史文化を活かした新たな商品開発等の地域ブランドづくりを支援する。</li> </ul>

## 4-5. 計画の進捗管理と自己評価の方法

本地域計画は、計画期間を10年間に設定して、歴史文化遺産の保存活用を推進する計画として策定するものである。このため、計画の着実な実施のために、施策の適切な進行管理と共に、成果目標を設定することが重要である。

そこで、本地域計画では、計画に基づく取り組みや事業の目的、目指す効果を歴史文化の保存・活用に関わる市民、団体などの各主体が共有できるよう、目標達成に向けたプロセスの進捗状況を定量的に把握・点検するための指標としてKPI（重要業績評価指標）を表4-5-1のとおり設定し、計画の進捗管理と自己評価を行う。

なお、KPIは加西市総合計画の計画期間と対応した3年後までに実施を予定する事業についてのみ掲載している。中期・後期を目標としている事業は、事業実施時に全体の進捗状況の点検と効果検証を行ったうえで、事業計画の見直し並びに具体化等を行い、目標値を設定する。

表 4-5-1 具体的な施策展開に向けたKPI（重要業績評価指標）

方針	指標	実績値 2019年度	目標値 令和5年(2023年)	備考
1-a 調べる	(1) 調査計画の作成	—	調査計画の作成	
	(2) 史料のデジタル化	—	年間1件・計3件	
	(3) 先端技術の活用による調査	—		
	(4) 古地名・故地の記録と復元のための調査	—		—
	(5) 水場・利水・天下溝等調査	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(6) 『加西市史』の補足調査	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(7) 市民による歴史文化遺産調査の支援体制整備	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(8) 文化財ハザードマップの整備	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(9) 歴史文化遺産データベース化	—	—	(後期) 事業実施時に目標設定
	(10) 玉丘古墳群の調査	—	—	(後期) 事業実施時に目標設定
	(11) 石造物と石の産業史の調査	—	—	(後期) 事業実施時に目標設定
1-b 学ぶ	(12) シンポジウム・講座の開催	2回	年間1回の講座等を実施・計3回	
	(13) 歴史ウォークの開催	6回		
	(14) 石彫ワークショップの開催	—		
	(15) 歴史文化の担い手育成支援体制整備	26人	講座受講者数 年間5人計15人	北条小歴史ガイド隊第15期生
	(16) 歴史文化学習メニューの作成	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(17) (仮称) 市民学芸員養成講座の開講	—	—	(中～後期) 事業実施時に目標設定
	1-c 考える	(18) 地域主体の計画づくり等の支援体制整備	—	計画策定数1地区
(19) 地域主体の歴史文化遺産の保存・活用		1件	保存・活用数1件	宇仁郷資料館吉田文庫開館
(20) 保存活用のための相談窓口の整備		—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
(21) 多様な主体が参加する協議会の設置		—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
2-a 整える	(22) 史跡玉丘古墳群の整備	—	整備計画見直し	
	(23) 史跡公園の整備	—	施設修繕完了	
	(24) 五百羅漢観光整備事業の推進	—	来館者数 1万人/年	
	(25) 北条地区景観形成事業の実施	—	景観形成事業3件 指定等1件 修繕・改修等1件	
	(26) 新たな文化財の指定・登録等	5件		
	(27) 指定・登録文化財の修繕	—		
	(28) 指定等文化財の解説板の改修・増設	—		
	(29) 歩く文化財パトロールルート作成支援	—	ルート作成件数1件	
	(30) 「地域の宝」登録制度創設	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定

方針	指標		実績値 2019年度	目標値 令和5年(2023年)	備考
2-a 整える	(31)	鶉野飛行場跡地及び周辺地域の整備	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(32)	交通ネットワークの検討・整備	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(33)	景観形成等住民協定の締結推進 (景観形成重要建造物指定)	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(34)	防犯設備の整備	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(35)	防火訓練の実施	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
2-b 発信する	(36)	市のホームページによる歴史文化遺産の発信	1件	情報発信数10%増	
	(37)	スマートフォンアプリの利用	—		
	(38)	先端技術を活用した魅力発信方法の検討	—		
	(39)	出身者等による魅力発信の仕組みづくり	—		
	(40)	歴史文化遺産ビューポイントの設定	—	3箇所設定	
	(41)	ふるさと納税充当件数	—	充当件数3件	
	(42)	多言語パンフの作成	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(43)	案内板等の多言語化	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(44)	活動団体顕彰制度の創設	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(45)	取り組み事例集の作成	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
(46)	「子ども観光大使」認定制度の創設	—	—	(後期) 事業実施時に目標設定	
2-c 使いこなす	(47)	関連文化財群の周知	—	周知認識度60%	
	(48)	着地型観光メニューの検討	1件	企画・開催数3回	HOJO MACHI HOSTEL オープン
	(49)	関連文化財群観光ルートマップづくり	—	標識設置3件	
	(50)	庁内関係部局との連携・調整体制の整備	—	連携事業数1件	
	(51)	近代化遺産ウォーキングルート整備	—	整備開始	
	(52)	地区の関連文化財群の検討	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(53)	近代遺産施設の活用	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(54)	歴史文化を活かした収益構造の確立	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(55)	県や近隣市町連携による広報展開	1件	—	(中期) 事業実施時に目標設定
	(56)	歴史資料活用イベント等の企画・開催	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定
(57)	地域ブランドづくり	—	—	(中期) 事業実施時に目標設定	

## 4-6. 関連文化財群を通じた取り組み

### (1) 本地域計画における関連文化財群の位置づけ

「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」（平成31年（2019）3月、文化庁）では、関連文化財群を「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとしてとらえたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結び付いた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる」としている。

地域の歴史文化を捉える上で、大きく分けると「時間」「テーマ」「空間」の3つのアプローチ方法がある。「時間」とは、過去から現在へ時間の流れに沿って歴史文化を把握するもので、加西市では『加西市史』の通史編がこの役目を担っている。「テーマ」とは、特定の分野に沿って把握していくもので、市史の「文化財編」のほか、本計画で設定する「関連文化財群」などが担っている。「空間」とは、ある特定の地域に限定し歴史文化を掘り起こすもので、「地区ごとの関連文化財群」や、本計画で設定する「歴史文化遺産保存活用区域」などがこれにあたる。

本地域計画では、「加西市」の関連文化財群を、その価値をより分かり易く整理したうえで、国内外に発信できる魅力として磨き上げること、市民が歴史文化をより身近に感じ、地域の歴史文化に対する誇りと愛着を育み、主体的な取り組みを進めていくためのツールと位置づける（図4-6-1参照）。

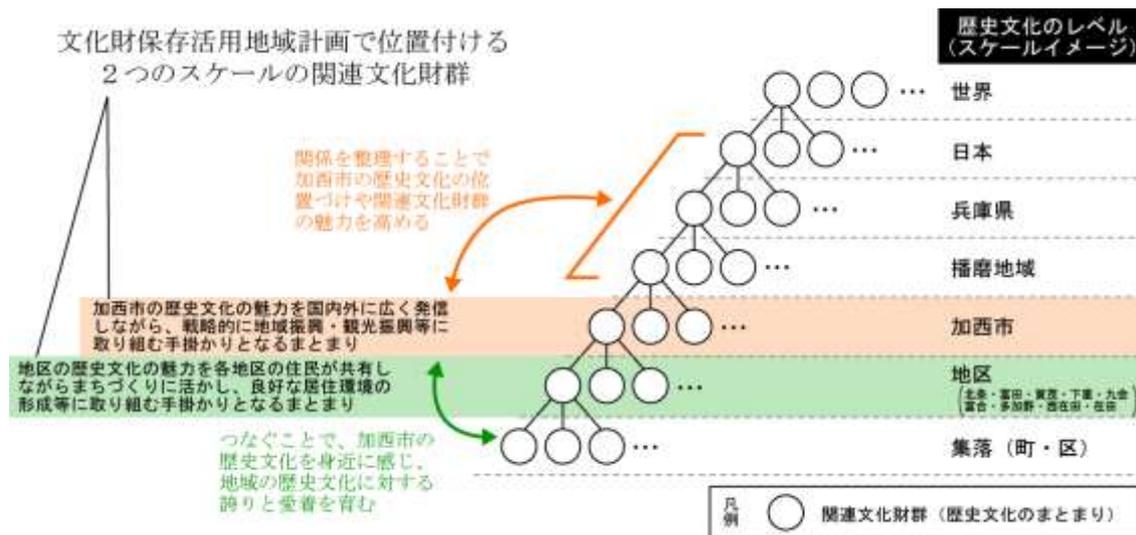


図4-6-1 地域計画で設定する関連文化財群の位置づけ

### (2) 関連文化財群の設定の考え方

関連文化財群は、本市の歴史文化の特徴や魅力を解説し、地域振興・観光振興を戦略的に推進する手掛かりとなる、「体系化された活用の素材群」としての役割を担うことを目的として設定する。従って、市内外の多くの人々を惹きつける魅力と分かり易さに加え、本市の歴史文化を見つめなおしてみようと思えるような新しい視点や切り口を含む関連文化財群とすることが求められる。

このため、設定にあたっては、本市の歴史文化を語る上で特に重要な歴史文化遺産（加西市を代表する歴史文化遺産）を抽出し、大きなまとまり（以下「テーマ」という）を設定した上で、テーマの内容を具体化した小さなまとまり（以下「歴史文化ストーリー」という）を設けることで、分かり易さと施策への展開のし易さの両立を目標とした。

「加西市の関連文化財群」と「地区の関連文化財群」の関係は図 4-6-2 のように整理できる。

本地域計画で具体化する「加西市の関連文化財群」は、相互に重なり合いながら市全域に分布し、「地区の関連文化財群」の上位にあたる、より広域な歴史文化ストーリーを形成しており、「地区の関連文化財群」の価値の理解や共有のための手掛かりになり得る。一方で、「地区の関連文化財群」を単体または組み合わせた取り組みを展開することで、「加西市の関連文化財群」の魅力に厚みを持たせると同時に、着地型観光メニューの一つになる等、市域をフィールドとする面的な地域振興・観光振興等の取り組み素材として期待される。

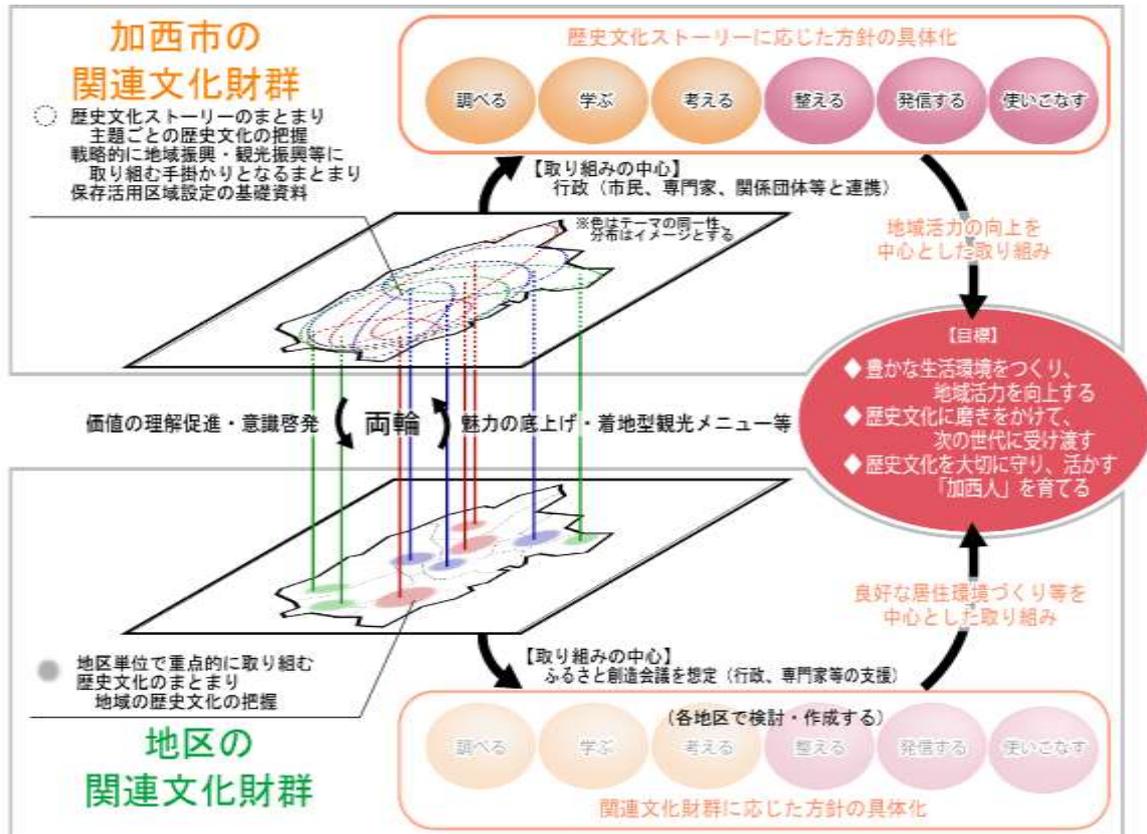


図 4-6-2 関連文化財群を通じた取り組みの展開イメージ

### （3）加西市の関連文化財群

本市の関連文化財群では、歴史文化の特徴からそのテーマを導き出し、それぞれのテーマ毎に歴史文化ストーリーを構成することとした。

歴史文化の特徴の第一である「この地の地勢から生まれた石の文化や自然の恵みを活かし、自然への畏敬の念をもつ人々の営みがつくりだす歴史文化」から、「自然を活かし、共に楽しむ」というテーマを設定した。

歴史文化の第二の特徴である「播磨国風土記や街道の往来により生まれた多様な歴史文化遺産がつくりだす固有の歴史文化」からは、「史実と伝承で磨きをかける」というテーマを設定した。

さらに歴史文化の第三の特徴である「仏教文化の興隆や氏神信仰・大戦の記憶の継承の心を伝える歴史文化」からは、「安寧を祈る心を伝える歴史文化」というテーマが設定できる。

歴史文化の特徴から設定した関連文化財群の3つのテーマのもとに9つの歴史文化ストーリーを構成した。歴史文化ストーリーの相互関係は図 4-6-3 のとおり整理できる。

9つの歴史文化ストーリー（表 4-6-1 参照）の内容は巻末に示す。

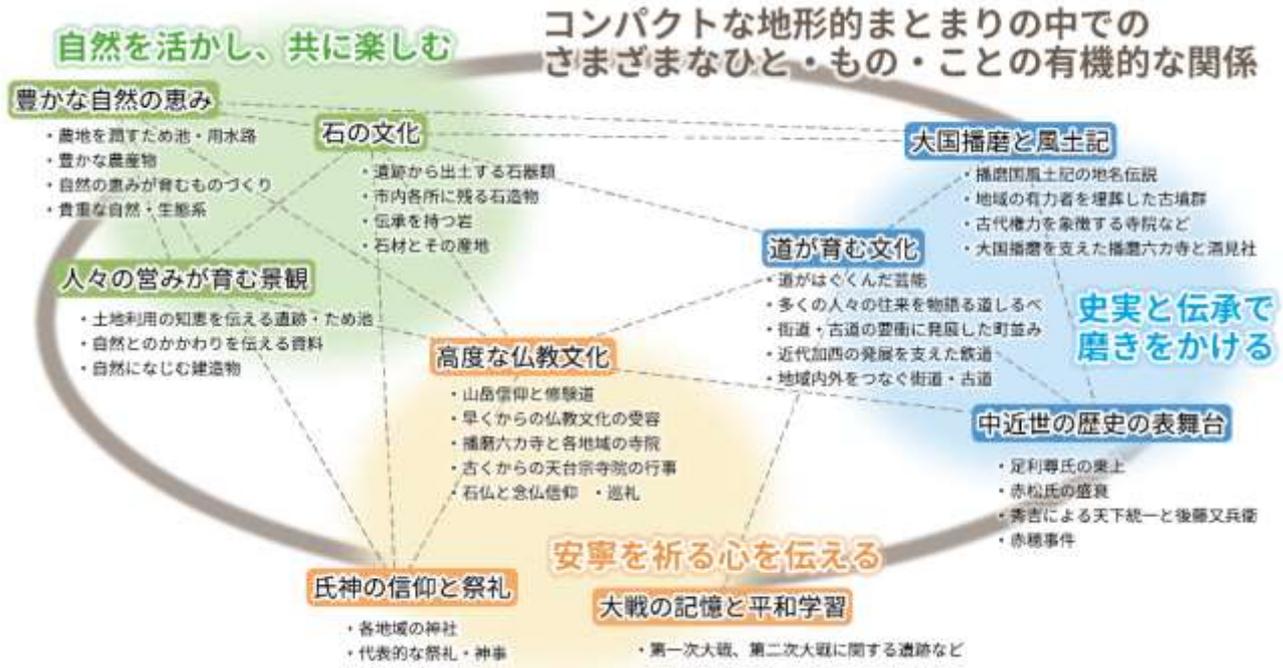


図 4-6-3 関連文化財群のテーマ・歴史文化ストーリーの関係

表 4-6-1 加西市の関連文化財群の構成

テーマ	歴史文化ストーリー
<b>I</b> 自然を活かし、 共に楽しむ	先人たちは、加西の豊かな自然を巧みに利用し、石の文化や自然豊かな景観を育み、農業やものづくりのなかで、人を含めた多様な生物が共に生きる文化といった、加西の個性あふれる歴史文化を築き上げてきた。その精神を受け継ぎながら、「楽しみ」という新たなスパイスを加えることで、より一層魅力的な歴史文化に育んでいく。
	①かつて石の匠おりき
	②多彩な生業、醸し出す景観
<b>II</b> 史実と伝承で 磨きをかける	③水、自然の力と人々の取り組み
	④風土記が語る豊国播磨
	⑤交差する道が育んだ文化
<b>III</b> 安寧を祈る 心を伝える	⑥歴史の表舞台となった中近世
	⑦信仰の繋がりや祭礼の継承
	⑧華ひらいた高度な仏教文化
	⑨近代戦争を記録し、学び伝える